

子育て支援実施状況及び活動等の感想・課題等

別添

事業No.79 市民・団体等の主体的な子育て支援事業の把握

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
<p style="text-align: center;">明日の家族を考える会</p>	<p>①WNWのびやかスペース「カルガモクラブ」 対象:0歳児～3歳児 場所:前田集会所 日時:第1火曜日 10:00～11:30 第3木曜日 13:00～17:00 開催回数:25回 参加人数:延べ201組(子ども215名)</p> <p>②夏休みフェスタ 対象:地域の方々(大人・子ども) 日時:8月28日(木)13:00～17:00 場所:前田集会所 参加人数:39名(大人20名, 子供19名)</p> <p>③県民交流広場事業「まちの寺子屋」 対象:幼稚園児, 小学校低学年 場所:前田集会所 日時:毎月第1土曜日 10:00～12:00 開催回数:延べ12回 参加人数:30名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 一般市民に対するPR方法 現在はほとんど口こみによる参加者である。 ・感想 教室が母親の息ぬき, ストレス発散の場になっている。 ・平成25年度は, 0歳児～よちよち歩きまでの「カルガモクラブ」とよちよち歩き～3歳児までの「バンビグループ」とに分けていたが, 第2子を出産されて2人を連れて参加される母親が増えたため, 0歳児～3歳児までにして教室を統合した。2人の子どもの母親からも好評である。 ・打出集会所での教室は参加親子が見込めるようであれば再開する。
<p style="text-align: center;">芦屋栄養士会</p>	<p>白菊会「年末のつどい」 親子での料理教室です。 1. 日時 平成26年12月14日(日) 2. 参加者 12組</p>	<p>白菊会, こども課の企画ですので, 参加者の人数はあまり心配ありません。お母さんとの参加でしたが, 日頃出来ない会話がもててよい機会だと思いました。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
<p style="text-align: center;">芦屋おもちゃ図書館グーチョキパー</p>	<p>○主に就学前の子ども(障がいをもつ子どもとともに)と、その保護者を対象に、自由におもちゃで遊べる場所を提供(月2回)。</p> <p>○折り紙教室(5月)・エプロンシアター(8月)・クリスマス会(12月)・ボールプール(2月)を実施。</p> <p>○平成26年度の利用者数は、子ども191名・保護者158名(延べ人数)で、特にクリスマス会は61名の参加があった(子ども・保護者合計)。</p> <p>○年4回、おもちゃ図書館通信を発行。</p> <p>○月2回、スタッフの定例会を実施。保有しているおもちゃのメンテナンスや、新しい布おもちゃ(平成26年度は、大きなケーキ・エプロンシアター・クリスマスオーナメントを制作)。</p> <p>○クリスマス会では、参加者全員に、クリスマスオーナメントのプレゼントを実施し、大変喜ばれた。人形劇・手遊び・自由遊びと、クリスマス会全体が充実した内容で開催できた。</p> <p>○布絵本・おもちゃの貸し出しを実施。近年貸し出し希望者が増加傾向にある。</p> <p>○芦屋おもちゃ図書館グーチョキパーは、全国に約400あるおもちゃ図書館のひとつで、特定非営利活動法人おもちゃの図書館全国連絡会(http://www.toylib-jpn.org/index.html)と連携し、全国各地のおもちゃ図書館との情報交換に努め、また、研修などにも参加している。</p>	<p>【課題】</p> <p>○利用者が固定化しており、新規の利用が減少傾向にある。また、リピーターが少ないことも大きな課題である。</p> <p>○クリスマス会は、登録者へハガキで案内を送り、多数の参加へとつながった。日頃の活動も積極的にPRし、利用者の増加へつなげたい。</p> <p>【感想】</p> <p>○市外から結婚を機に転入し、芦屋市で子育てをしているケースが多いように感じる。地縁・知人のいない保護者が、孤立しないように、気軽に参加してもらえたいと考える。</p> <p>○活動を長く太く続けていくために、若い世代のボランティアスタッフに参加してもらいたいと常々考えている。おもちゃ図書館を利用してもらうことで、本会を知ってもらい、いずれはボランティアとして運営に参加してもらえれば本望である。</p>
<p style="text-align: center;">芦屋市学童保育保護者連絡会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5月「H26年度総会」と児童向け「科学実験教室」を開催。 ・年6回の定例役員会の開催と、『がくほれんニュース』の発行を行い、芦屋市留守家庭児童会、各学級の様子や、学童保育をめぐる情報を共有し、市内8学級の保護者の交流を図ることができた。 ・各学級毎の親睦行事の企画運営支援。(学級保護者会主催の親子遠足やコミスク祭りへの出店など好評であった。) ・10月『芦屋の学童保育を考える集会』と児童向け『ケーキデコレーション教室』を開催。 保育推進保護者会協議会と共催で、新制度における学童保育について、芦屋市の事業計画[中間まとめ]について共有、意見交流を行った。 ・1月『学童保育説明会』を、“ほすい”との共催、市担当課の協力を得て開催。ほすい加盟保育所(園)以外からも来年度に学童保育の利用を考えている方々の参加があった。 ・2月『まっちゃん親子コンサート』開催。地域の親子さんや子育て支援ボランティアの方にも参加してもらい楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H26年度は特に、子ども子育て支援新制度に基づく市の事業計画がつくられた年であり、日々学童保育にお世話になっている保護者同士として、情報の共有に努め、保護者の声、また子ども達の声を代弁する立場として、意見を届けることができるように活動をすすめた。その中で、会として活動することで皆さんの支援を受けることができることを実感した。これからも、働きながらの子育ての中で保護者会の運営が続けられるように、情報の共有と意見交流の場として、各会員すなわち仕事と子育てを両立する家庭との連携を図っていきたいと思う。 ・これから学童保育を利用する方達としてのほすいとの連携、仕事をしている、していないに関わりなく子育てをしている家庭との交流を念頭に各イベントを企画し、それぞれに有意義なひと時をもつことができたと思う。会の企画は毎年検討していくことになるが、市との協力など、今後も継続していきたいと思う。

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
<p style="text-align: center;">芦屋市子ども会連絡協議会</p>	<p><研修・事業></p> <p>5月5日 5・5フェスタ 約600名</p> <p>7月 元気しんぶん夏号 発行(小学校を通じて児童に配布)</p> <p>7月19日 夏の里山あそび申し込み受付</p> <p>7月23日 将棋教室42名(浜風コミスク共催)</p> <p>7月24日 将棋教室42名(浜風コミスク共催)</p> <p>7月28日 将棋教室29名(浜風コミスク共催)</p> <p>8月4日 丹波里山あそび 子ども44名 丹波かどのの郷 スイカ収穫 達身寺 座禅 他</p> <p>8月24日 オセロ大会 子ども24名</p> <p>9月14日 阪神ブロックオセロ大会8名</p> <p>10月12日 秋まつり子どもみこし 台風のため中止</p> <p>11月2日 県オセロ大会2名参加</p> <p>1月 げんきしんぶん冬号 発行</p> <p>1月25日 尼崎との雪あそび打合せ</p> <p>1月31日 尼崎との交流雪遊び説明会</p> <p>2月14～15日 尼崎との交流雪あそび 子ども22名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単位子ども会でもいろいろな子どものための行事が実施されている。育成者、指導者は(その他の保護者も)、仕事をもっている方が多く、仕事の合間をぬってよくお世話をされているが、毎年年度変りには新しい役員を見つけるのが大変そうです。 ・地域の子供達が当然入るべき会であった時代もありましたが、最近は多様な選択肢の1つにすぎないと感じます。

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
芦屋市社会福祉協議会	<p>事業No. 79 市民・団体等の主体的な子育て支援事業の把握</p> <p>○ファミリー・サポート・センター事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記事業実施において、協会員養成講座(2回)、会員交流会(3回)、お役立ち講座(6回)を開催 ・保健福祉フェア開催時、手づくりおもちゃコーナーと会員登録コーナーを実施 <p>○ボランティアグループによる子育て支援活動の支援 (芦屋おもちゃ図書館グーチョキパー、あしやおもちゃ工場、芦屋ファミリー・ラブ、託児芦っ子)</p> <p>○共同募金配分金事業の一環として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子ども会へ活動助成 27件、児童・生徒等へのボランティア活動助成 7校、ひとり親家庭ボウリング大会への協賛(芦屋白菊会主催ボウリング大会へ助成金交付) <p>○各校への資機材貸出、ボランティア講師の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす貸出 2回、アイマスク貸出 9回、ボランティア講師紹介 10回、点字盤の貸出 5回、白杖の貸出 6回、高齢者疑似体験セット貸出 2回 <p>○認知症サポーター養成講座を朝日ヶ丘小学校5年生に実施</p> <p>○心配ごと相談等相談窓口による相談の受付</p> <p>○生活福祉資金(教育支援資金)による学費等の貸付 9件、教育支援資金貸付継続者への在学確認面談 14人</p> <p>○障がい児日中一時支援事業の実施(登録者数 36人)、実施日数241日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマー学生ボランティア 5人 <p>○障害児相談支援事業による障がい児のサービス利用等計画の作成を行う 27人</p>	<p>○ファミリー・サポート・センター事業については協会員の資質向上と会員数の増員が課題です</p> <p>○今後も赤い羽根共同募金配分金などを財源として、ボランティアグループ活動や児童生徒の健全育成のための各事業を継続して実施します</p> <p>○総合相談窓口での相談を専門機関へつなぐとともに、生活福祉資金貸付制度の活用による学資金の貸付、及び生活困窮者支援制度を通して子どもを含む困窮家庭の自立へ向けての支援を実施します また、教育支援資金利用者には在学中、償還中も民生児童委員の見守りがあり、生活全般の相談も受け付けます</p> <p>○福祉学習の一環としてボランティア講師や資機材の貸出を充実することで、学校教育分野との連携を目指します 市内小中学校全校に取り組んでいただけるような働きかけが課題です</p>
	<p>事業No. 80 NPO及び市民・団体等との協働による子育て支援の把握</p> <p>○こどもフェスティバルの実行委員会に参画</p> <p>○歳末たすけあい運動の一環として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子・父子年末のつどい(芦屋市こども課主催) 参加者へクリスマスケーキを贈る 13人 ・障がい児年末のつどい(芦屋市障害福祉課主催) 参加者へクリスマスケーキを贈る 100人 ・児童福祉施設へ歳末たすけあい募金の配分金をお届け 7施設 <p>○地区福祉委員会活動の一環として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と児童のふれあい給食会などの学校園との交流、コミスク行事への参加、町内パトロールや下校時の見守り活動、夏祭りや盆踊りへの協力など <p>○地域発信型ネットワークでの会議体にPTAやこども会、コミスクなどの団体にも参加いただき、ネットワークの充実に取り組んだ 小地域福祉ブロック会議 延べ19回</p>	<p>○地区福祉委員会活動の一環としての下校時の見守り活動では、他団体との協力のもと実施しているところも多く、さらなる連携で活動が継続されるように支援します</p> <p>○地域活動により多くの方が参加しやすい場面をつくることにより、子育て世代も参加できる取り組みを進めることで、子育て中の親が孤立感を抱かないような地域づくりを進めます</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
<p style="text-align: center;">芦屋市青少年育成愛護委員会</p>	<p>青少年育成愛護委員(以下「愛護委員」という。)は、芦屋市教育委員会から委嘱を受けて、愛護活動を実施しています。愛護委員会の構成員は、愛護委員を経験したOBで組織している愛護協会員と、他に市内小・中学校長から推薦を受けた保護者の皆さんで組織しています。小学校区ごとに班を編成して愛護活動を行っています。</p> <p><input type="checkbox"/> 芦屋市青少年育成愛護委員会 総会及び委嘱式 ※平成26年6月2日実施 196名に委嘱</p> <p><input type="checkbox"/> 街頭巡回 地域の子どもの様子を見守るとともに、子ども達のためのよりよい環境整備、浄化に努めた。</p> <p>○朝のあいさつ運動、登校見守り、下校見守り、昼のパトロール(通学路や公園などの点検)、夜のパトロール、夏祭りなどの特別パトロールなどを実施 ※平成26年度実績として552回、延べ4,708名の活動がありました。</p> <p>○三市(西宮・尼崎・芦屋)合同パトロールがあり、芦屋市青少年育成愛護委員として22名の愛護委員が参加 ※平成26年11月27日(尼崎市で実施)</p> <p>○市内合同パトロールを実施 ※平成26年6月24日実施 50名参加</p> <p><input type="checkbox"/> 班集会 巡視活動の報告、自分達の子育ての悩みや経験を話し合ったり、愛護活動全般についての意見交換を行った。 小学校区ごと、精道・宮川・山手・岩園・朝日ヶ丘・潮見・打出浜・浜風の8班に分かれて毎月1回開催。班集会で出た報告・意見等をもとに班長が役員会に出席して他の班との意見交流をしている。役員会の内容は、次の月の班集会で班長が報告</p> <p><input type="checkbox"/> 役員会 各班の班長、会長、副会長、会計、監査、愛護センター職員が集まり、月1回開催</p> <p><input type="checkbox"/> 研修会について 子ども達の現状や問題点をよく知るために、講演会、研修会、施設見学等を実施 研修会:平成26年12月1日～11日「DVD補導員の心得」声かけの実際 講演会:平成27年3月16日「子ども達が利用するインターネットの世界」 中学校区青少年健全育成推進会議と合同で開催</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関との連携 兵庫県青少年補導委員連合会、阪神地区青少年補導委員連絡協議会で開催される会議、研修会に出席(各研修会に14～18名程度出席)</p>	<p>芦屋市の愛護活動は、「青少年と一体になって問題行動の克服を共に考え、青少年の立場からその人権を守り育てて行く」ことを目的としています。少しでも多くの地域の方の理解と協力が得られ、青少年がのびのびと育っていただけることを願って活動を続けています。</p> <p><input type="checkbox"/> スマートホン、インターネット等の課題について、警察関係機関と連携し保護者を対象に中学校区青少年健全育成推進協議会との合同研修会を開催し、正しい情報利用の在り方について、家庭を中心に考え見えない犯罪から子どもを守る活動を推進しています。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
芦屋市白菊会	<p>8/24 ボウリング大会 夏休みの思い出の一つとして、又ゲームを通して会員同志が言葉をかわして友達づき合いに発展してほしいと思い実施</p> <p>10/26 バイキングとケーキ飾り 小さな子どもだけでなく高校生も参加でき又ケーキの上の飾りだけですが、パティシエの気分を味わいお互いの飾り方の斬新さに声をあげ楽しむ事ができた。</p> <p>12/14 年末のつどい 午前中は栄養士会の指導のもと、家でもお手伝いが出来るように親子でクッキング。その後参加者全員でクリスマスソングを歌い食事会。 午後からは体育室で全員で体を動かし走り回り楽しい一時を過ごした。</p>	<p>課題 ①如何にして会員を集めるか。 →個人情報にあたるため会員に該当する人が分からない ②会員全員に行事等の案内を伝達するのが難しい ③会員が何を望んでいるのか把握するのが難しい</p> <p>メールだけのつながりではなく、お互いに会って言葉をかわすを根底において活動している姿勢を今後も続けていきたい。</p>
芦屋市PTA協議会	<p>・H26, 6/18 リーダー研修会(精道小学校)</p> <p>・H26, 7/15 人権学習委員会(精道小学校) 46名</p> <p>・H26, 8/23 夏休み！エドさんの体験型マジックショー(宮川小学校) 296名</p> <p>・H26, 10/31 ネット・スマホとの上手な付き合い方～性教育を通して考える(市民センター) 127名</p> <p>・H26, 11/5, 11, 18 市教委事務職員との懇談会</p> <p>・H26, 11/15 松本零士先生講演会「宇宙をめざす君たちへ」(精道小学校) 216名</p> <p>・H27, 2/13 子どもの可能性を引き出す～今日からできるイメージング法(ルナ・ホール) 232名</p> <p>・H27, 5/12 広報研修会(市民センター)</p>	<p>「課題」 事前に聞きたい講演会のアンケートも取っているが、保護者にとって楽しみながら参加できる内容(食育等)にするか、親自身が成長できるような学びの講演会にするか、会場と参加申込数のバランスを考えながら、年間を通して今後も検討していく。</p> <p>「感想」 親として学びたいという気持ちを持つ保護者がいる事を感じ、開催する側も嬉しく思う。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
芦屋市保育推進保護者会協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会を行い、活動運営の打合せ、各保育所の保護者同士の連携、情報交換をおこなった。(5月、7月、9月、11月、2月、3月、4月) ・保護者の意見を取りまとめ行政に要望 →全保護者にアンケートを行い、要望書としてまとめ、保育課に提出。 平成27年1月16日(金)に芦屋市役所にて懇願会を行った。 ・保育所職員との連携 →三団体(市職・現職・ほすいで構成)の会議に参加。 主に署名活動への協力。※平成27年は休会と決定。 ・市民団体との連携 →兵保連に加盟し活動 毎月4週目金曜日の「兵保連役員会」や「標語の保育を考える会」への出席 ※平成27年は役員活動の内容を縮小 ・子ども・子育て会議に出席 (平成26年5月27日、7月11日、7月29日、8月29日、10月21日、 12月25日、平成27年1月29日、3月31日) ・芦屋市次世代育成支援対策推進協議会(平成26年11月22日、平成27年 3月26日) ・9～10月にかけて「保育の拡充を求める国・県に対する署名活動を行った。 ・学童保育保護者連絡会との連携 ①芦屋市学童保育保護者連絡会へ出席(平成26年5月11日) ②芦屋の学童を考える集会を開催(平成26年10月19日) ③学童保育説明会開催(平成27年1月24日) ・”ほすい”を知る・知らせる活動 ①”すくすくのびのび”発行 ②”ちいさいなかま”の講読・普及 	<p>”ほすい”の役員は各保育所より選出し、毎年メンバーが変わっております。今までは役員の負担が大きかったため平成27年度より活動内容を縮小しております。団体としては保護者の意見を行政に上げたりと、より良い保育はもちろん現状維持のためにも連携していく必要があると考えております。</p> <p>(課題) 役員ではない保護者に活動があまり浸透していないのもう少し活動をPRしていく必要がある。</p> <p>(感想) 保育所間の情報交換などができるので良いと思う。 昨年度までは役員の負担が多かったようなので今年度からはあまり負担をかけず活動していきたいと思っております。</p>
芦屋地区 更生保護 女性会	<p>芦屋市立各幼稚園でお茶会をしました。 園児が実際にお客様・お運び役になり、その中で礼儀作法、お道具の大切さ、命の大切さを指導しました。</p> <p>5～11月間 9回 合計491名の参加</p>	<p>園児達が一生懸命している姿に感動します。 毎年、とても楽しみにしている園児の姿が私達の頑張るエネルギーになります。 普段あまり参加できない園児が思いがけず参加している姿に先生方も驚き喜んでくださる事に私達もやりがいがあります。</p>
芦屋 ツイ ンズ	<p>12月にバルーン・アートの安木良明氏を招いて「親子でバルーン・アート」を実施。(12/24。30人参加)風船を目と耳と口で感じて子ども達が目を輝かせていました。 あまりにも好評で、参加できなかったツイズ親子からも要望があったため第2回「親子でバルーン・アート」(2/25。30人参加)を開催。 平成26年は、年度途中で支援事業が(補助金)わかったため、あまり時間がなく最大限、有効に利用できなくて残念だった。</p>	<p>①去年の5月に、他のグループ(ベビパラさん)と交流会を行ったので、とても好評だったため今年もお願いして10月に交流会を実施することになってい ます。 他のお子さん、お母さんとの情報収集の場もでて、場所を提供してくれてい る子育てセンターには感謝しています。(保健センター2階プレイルーム)</p> <p>②平成27年度グループ支援事業の補助金が「講師の謝礼のみ」なので兵庫県 立こどもの館の「動く・こどもの館号」の派遣協力金が個人ではなく兵庫県に 入るお金なので補助金対象ではないため断られてしまった。芦屋ツイズは一切 会費等の料金を徴収しない育児サークルのため、是非来年以降「派遣協力 金」も補助対象にいられて欲しいです。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">NPO法人「絵本で子育て」センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第11期「絵本講師・養成講座」を開講した。 平成26年 3月15日, 4月26日, 6月21日, 8月23日, 10月25日, 12月13日(年6回) ・子育て情報誌「絵本フォーラム」を発行した。 平成26年5月10日, 7月10日, 9月10日, 11月10日, 平成27年1月10日, 3月10日(年6回) ・芦屋市保健福祉センターにて 小山裕章氏の講演会を実施した。(6月8日) ・芦屋市男女共同参画センター市民企画講座 絵本講座・イベント ・高齢者総合福祉施設「愛しや」での読み聞かせ(月2回) ・阪神間での子育て支援活動 (芦屋市・宝塚市・西宮市・尼崎市・神戸市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市男女共同参画センター市民企画講座 →パパの育児参加(絵本の読み聞かせ等)を促進していきたいと思います。 ・高齢者総合福祉施設「愛しや」での読み聞かせ(月2回) →手遊びや紙芝居, 昔ばなしなどをさせていただいてとても喜んで下さっています。 <p>ご自分の子育てに悩んでおられる方が大変多いと感じます。「絵本で子育て」, 絵本の読み聞かせで子育てに余裕ができ, 我が子を客観的に見ることができるようになり, 子育てが楽しくなりますよとお伝えしたいと思います。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">NPO法人さんぴいす</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1)小学生を対象とした体験型環境学習の実施 5月～3月まで平均月1回ペースで芦屋市内の自然を活用した体験型環境学習を実施。年間登録者101名, 保護者を含めると300名以上の親子に参加して頂きました。 2)芦屋市内で初の定期的な開催を目的とした子ども冒険ひろば事業の実施 これまで市内でも, 単発での「冒険ひろば」事業の開催は行われてきたが芦屋公園において, 月1回を原則とした「子ども冒険ひろば」の実施をおこなった。開催初年度で, 10月以降の後期からの開催であったが合計10回の開催で延べ134人の参加で行う事ができた。 3)幼児から参加可能な野外体験活動の実施 これまでは, 芦屋市内の自然を活用した小学生を中心とした体験型環境学習を行ってきたが, 市内だけでなく, 市外での野外活動を行う事で, 身近な自然との違いを知ってもらうこと。また, 参加対象者を年少の幼児から子どもだけでも受入れ可能な新たな体験活動を, 前期は兵庫県青少年本部の「子ども若者応援」事業として実施し, 後期は当法人の自主事業として通年での継続実施をおこなった。 	<p>約10年近く芦屋市内で子どもを対象とした野外活動を続けてきましたが, 参加者の低年齢化が年々進んで来ている気がします。 また, 子育て支援と一口に言っても, 子どもの支援, 保護者の支援, 子ども? 若者は38歳まで?と, どんどん定義や範囲も広がってきています。 そのような中で, もう一度原点に立ち返り, 支援とは何か? 本当に解決しなければいけない事は何かを問い直し, 次世代の担い手となる新たなリーダーの育成にも力を入れていかなければならないと感じています。</p> <p>子ども課のご努力により, かなり芦屋市役所内の各課の縦割り行政は子どもというキーワードに関しては, かなり横のつながりも増えてきていると感じています。 なので, この良き流れを今後も後退させること無く, 少しずつで構いませんので, 前進させて頂けることを期待しています。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
	<p>1. 日本文化・習慣等の理解支援</p> <p>①「お弁当教室」&「和菓子教室」を実施（6月1日、木口記念会館）。お弁当教室は本年度3回目、和菓子作り体験は今回初めて実施。参加数は約35人</p> <p>②折り紙体験（5月18日）を実施、参加者数48人</p> <p>③改修された姫路城見学会（11月2日）、参加は20人。JRで往復する</p> <p>④日本のお正月文化体験（1月11日）、百人一首やカルタ、お点前体験、雑煮、煮しめなどを味わう。参加は28人。母国のお正月や民話の紹介も行った。</p> <p>⑤地域の餅つき会に参加（2月1日、潮見コミスク主催）。参加25人。</p>	<p>【課題】</p> <p>日本文化を知るイベントは好評である。しかし、実施にはいろいろな経費がかかるが、「受益者負担」では参加者は増えない。行政助成や広報などの支援が必要である。スタッフは交通費実費だけしか支払できていない。</p> <p>【感想】</p> <p>楽しんで参加している。こういうイベントを通じて日本語、日本の文化などの理解を深めている。</p>
	<p>2. おとなと子どもの日本語学習と学校の勉強支援</p> <p>①小学生は、毎週日曜日の午前実施。4月から翌3月まで45回実施。実人数は16人。延約600人。</p> <p>②中学生・高校生の学習支援は、毎週日曜日の午前中と火曜と木曜の夜7時から2時間実施。週に3日実施である。全91回実施。参加の子ども実12人、延約700人参加。</p> <p>③夏休み宿題教室は7月30日から5日間、10時～15時で計25時間実施。芦屋市教委と兵庫県国際交流協会の3者で実施。参加者実42人（小中高生）、延約190人。</p> <p>④冬休み教室は、12月22日～26日（夜間実施）と1月4日～6日（午前中実施）の計8日、16時間実施。参加者数は実20人、延150人。</p> <p>⑤春休み教室は、3月27日～28日（10時～15時）の3日間、延15時間実施。参加者数は実15人、延40人。</p> <p>⑥母語学習は、4月から3月で18回実施。内容はポルトガル語、中国語。参加者数は実25人、延約300人。子どもたちの母語保持のために実施</p> <p>⑦先輩の話を聞く会は、日本にきて日本語に苦労しながら勉強して高校進学、大学進学した外国人の先輩の体験を聞いてがんばる勇気をもらう。2回実施、参加者実50人、延約95人（おとなも含む）</p> <p>⑧子どもたちの作文集「2014」作り。小学生16人、中学生6人の作文を掲載</p>	<p>【課題】</p> <p>①夏休み教室など3～5日間続けて学習支援を行う会場確保がとても難しい。通常使用させていただいているコミスク会議室は主催団体や他団体の行事があるときは使用できないため、近隣の有料会場を使用。午前午後の1日使用のため使用料は高額になる。学習支援の無料会場確保が必要</p> <p>②夏休み等の学校が休みの時の参加者は多い。第1の理由は宿題である。外国人の親は日本の学校の宿題を手伝うことが難しいため、このような教室がないときは、宿題未完成・未提出の子どもが多くなる。第2の理由として、親は仕事で子どもだけで留守番させるため、ほか外国人との出会いがある教室参加を希望する。</p> <p>③多くのスタッフが必要のため大学生に学習支援ボランティアに参加してもらおうが、学生に支払う実費交通費は夏だけで約40万円かかる。子どもからは最終日の交流会の飲み物代として500円しか集めていない。行政補助がないため、一般助成金を申請しなければならず、大変苦労である。行政助成が必要とされる。</p>
	<p>⑨子育てのための日本語学習を応援する。毎週日曜日（朝）、火曜日・木曜日（夜）実施、年間90回実施。参加者は延べ約500人</p> <p>⑩日本語理解力を知るために、年2回実施される「日本語能力試験」の受験を勧める。来日1年目の中学生1名（N3）と来日4ヶ月の高校生1名（N4）、おとなはN3が5人合格。2014年度は試行として合格者に「ステップアップ応援金」として受験料相当額を贈呈した。延11人に計約58,000円。</p> <p>⑪「日本語・母国語スピーチ大会in芦屋2015」に出場し、発表を行う。子ども21人、おとな11人出場、家族を含め総参加者は69人。（3月17日、木口会館）、兵庫県国際交流協会共催、芦屋市教委・芦屋市・芦屋市国際交流協会後援</p> <p>⑫防災の学習も行う（12月防災探検、1月避難訓練・非常食紹介、3月AED使用体験）、参加は延80人。会場は勉強しているコミスク会議室。芦屋市防災安全課と消防局から職員派遣してもらう</p> <p>⑬子どもたちが、小学校、中学校、高校を卒業する際に「卒業おめでとう記念品」をほかの子どもや親たちの前で渡し、卒業を祝い、卒業後の進路や抱負を語ってもらう</p>	<p>【感想】</p> <p>①夏・冬・春の集中学習は、外国人の子どもにとって宿題ができ、同じ外国人と出会う場となっている。</p> <p>②英検や日本語検定を受けることは、よいモチベーションになるし、合格すると自信につながっている。学校の試験とちがった意欲を見せている。特に親の日本語学習は子育てに大変有効となっている。</p> <p>③スピーチ大会は原稿を書く段階で、自分の歩みを見つめ直し、つらい経験などを見つめ直すよい機会になっている。</p> <p>④防災の体験や避難経路などの学習もこの教室が初めてという外国人が多い。</p> <p>⑤学校での卒業式とは違って、身近な人から卒業を祝われることを喜ぶ。</p>
	<p>3. 地域やボランティア等との交流を深め、孤立感を持たない支援</p> <p>①各家庭より料理を持ち寄り、親子家族での交流会（5月、3月）参加者数は計100人。</p> <p>②ブラジル人家庭が、子どもたちを招待してブラジル式焼肉を披露（8月、潮芦屋BBQ会場）、参加約65人</p> <p>③親子バス旅行（7月）淡路島渦潮と海水浴、夢舞台などの見学。参加数は67人（バス定員いっぱい）</p> <p>④「ありがとう2014」パーティー（12月21日）各家庭より料理を持ち寄り、大学生が運営し、中学生がゲームを進行、保護者がサンタ役、親子5人が特技を披露。参加数37人</p>	<p>【課題】</p> <p>外国人はパーティなどの交流が好きである。日頃日本人やほかの外国人と出会う機会が少ないためである。収入から1,000円を超えるイベントには参加しづらい。低額で参加できる交流会が必要である。</p> <p>【感想】</p> <p>親も子どもも母国の歌やダンス、民話などを喜ぶ。自分たちの文化等を理解してもらいたがっていることがわかる。親の姿勢が子どもの民族文化を嫌う、避けることを少なくし、外国にルーツを持つ子どもの子育てに共生の心を育てる。交流にはさまざまな文化や民族、宗教などの配慮等も行う。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
さるっこグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・季節のイベントごとに手作り工作などを行った(こいのぼり作り, セタ会, クリスマス会など) ・5月 出前講座を利用し「消防署見学」に行った ・11月 クロネコヤマトの交通安全教室を行った ・2月 講師の方を招いて、「英語リトミック」、「ミズノ体操教室」を行った ・老人ホームのエルホームの方たちと一緒に誕生日会のお祝いを行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作や歌などを通じて, 季節のイベントを親子で楽しめるように活動しています。 ・講師の方を招いたり, 普段交流のできないエルホームの方や幼稚園の園児たちとのふれ合いを通じて子どもたちにとって貴重な経験が出来ていると思います。
社会福祉法人のぞみ会 浜風の家	5月 料理教室 8名 6月 ロボットクラブ 9名 7月 バザー 165名 7月～8月 プール開放 延べ123名 8月 ふれあいコンサート 54名 10月 ハロウィン 38名 11月 オータムフェスタ 70名 11月 アメリカからの研修生受け入れ 12名 12月 チャリティコンサート&人形劇 65名 1月17日 震災メモリアル 146名 2月 節分豆まき 16名 3月 水ロケット製作・発射 8名	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・平日のイベントには子どもたちの参加が難しいために土日, 祝日の実施を検討する必要がある。 ・地域の学校や幼稚園との連携が必要である。 【感想】 <ul style="list-style-type: none"> ・休日の行事には父親の参加多く, 家族ぐるみでイベントを楽しんでいる。

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
精道小 S m i l e ね っ と	<p>●すまいるクラブ(芦屋市放課後子どもプラン事業) 1年生を対象(登録者)に実施(計7回)</p> <p>6/27(金) 色の不思議発見「スライム遊び」 子ども 51名 大人 14名 9/26(金) 大きなシャボン玉「シャボン玉遊び」 子ども 56名 大人 23名 10/24(金) 大空に飛ばそう「かさ袋ロケット遊び」 子ども 52名 大人 21名 11/28(金) 運動神経が良くなる「懐かし運動遊び」 子ども 53名 大人 20名 12/19(金) 英語でレッツダンス！ 子ども 52名 大人 19名 1/23(金) 伝統のお正月遊び。カルタ・坊主めぐり 子ども 50名 大人 20名 2/20(金) 手作りおもちゃ「ぱたぱたパズル遊び」 子ども 54名 大人 27名</p> <p>●園芸活動…園芸ボランティアの活動に5・6年園芸委員会の児童が参加 (年間約10回) 子ども 対象15名 大人 137名</p> <p>●給食ボランティア(4・5月。1年児童対象11日間) 子ども 対象105名 大人 99名</p> <p>●ミシンボランティア(9・10月。5・6年児童対象18日間) 子ども 対象200名 大人 112名</p> <p>●10/15(水)魚の三枚おろし体験 5年児童対象に東部市場の魚屋さんによる出前授業の支援 子ども 対象120名 大人 15名</p> <p>●11/7(金)見守り情報交換会 子どもたちの登下校を見守る団体の情報交換会 大人 57名</p> <p>●11/14(金)2年昔遊び体験 子ども 対象120名 大人 20名</p> <p>●11/19(水)子育てトークカフェ 芦屋市子育てネットワーク事業の一環。精道・伊勢幼稚園にて開催 大人 81名</p>	<p>【感想】 精道小Smileねっとは、学校・家庭・地域が連携して、子どもたちが心豊かに育つための環境づくりを支援する学校支援ボランティア組織。平成22年度にスタートし5年目となる平成26年度も様々な形での支援を行ってきた。参加者は、それぞれに子どもたちとのふれ合いを楽しみながら活動ができたようである。この活動は、支援する側・される側、それぞれに以下のような点で重要な活動であると実感する。</p> <p>◎子ども…人間関係が希薄になっている昨今、子どもが心豊かに育つためには、利害関係のない大人との関わりが大切。</p> <p>◎先生 …多忙を極める学校現場で、教師が子どもと向き合う余裕を生むためには、業務改善と共に、保護者や地域の支援が欠かせない。</p> <p>◎保護者…子育てに関する情報は様々なメディアを通じて簡単に入手できるが、直接的な関わりの中で、子育ての仕方や悩みを共有する機会が減ってきている。ボランティア活動に参加することで、その機会が得られているようだ。</p> <p>◎地域 …時間に余裕のある地域の方々にとって、小学校の子どもたちと関わることが、元気の源、また、生きがいとなっているとの声が多数寄せられている。</p> <p>* 左記の「すまいるクラブ」は平成27年度から、「あしやキッズスクエア」のスタートにより終了となった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期持続可能な組織のあり方(活動・事務内容の精選とマニュアル化) ・中心的人材の確保と育成 ・ボランティアの拡大と意識向上

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
託児「芦っ子」	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、第一金曜日 午後1:30～4:00 市民センターで例会 ・依頼されている託児の打ち合わせ ・主催、協カイベントの準備 ・子どもお楽しみ会 夏(7月海の日) 冬(12月) 「芦っ子」主催 うた、大型絵本、自分の写真(子ども)の「うちわ作り」、ゲーム、ダンス、折り紙、おみやげ袋の中は楽しみいっぱい 祝日で多く参加 ・福祉フェア参加(7月) ボランティア活動展に参加 絵本の読み聞かせ、きのこの等折り紙遊び 子ども達がたくさん来てくれてワイワイにぎやかに色々な作品を作ってくれたり教えられることができました。 	<p>託児にイベントに子ども達の気持ちに寄り添って、たくさん子ども達と話し、子ども達のすてきな発想に感心しながら、違った年代の人達と楽しい時を持ちたいと思っています。</p> <p>コミュニケーション力と創造性は社会生活ではとても大事なことと思います。子ども達との楽しい時をたくさん持てればよいと願っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語活動セルラスより託児依頼(市民センター) ・芦屋市学童保育連絡会より託児依頼(市民センター) ・社協から託児の依頼(折り紙遊び、絵本、ゲーム)
ちきゅうつ子応援隊	<p>日頃忙しくて、子どもとの接触が少ない父親、自然との触れ合いが苦手な両親を対象に、身近な自然物を使って子どもと一緒に楽しめるプログラムを実施しました。また、今年はおじいちゃんやおばあちゃんが昔、親しんだ遊びも組み入れ、お年寄りも参加して、多世代で楽しめるプログラムも追加しました。</p> <p>9/6 「自然物を使った遊び」参加者 12名 木の葉や小枝を使ってカブトムシやクワガタ、セミなどをつくった。</p> <p>10/25 「自然物のオブジェ」参加者 8名 紅葉した葉っぱや面白い形の葉っぱや枝を使い、粘着キャンパスの上に、色々な造形を創出する。周りに小枝の額縁を付けてオリジナル立体絵画の完成。</p> <p>12/6 「自然の表情 再発見!!」 葉っぱや貝がら、木の皮などの上に薄紙を当ててこすったり、自然物の表面に色を塗り直接模様を写し取り、これらを組み合わせ、自然の妙味を楽しんだ。</p> <p>12/27 「今日からイクジイ・イクバア お正月」 かつて、お正月の遊びとして定番であった「コマ回し」と「凧あげ」を自分たちで作って楽しんだ。</p> <p>1/24 「芦屋川のヨシを使った遊び」 種々の長さで切ったヨシの軸と輪ゴムを使って、筏、家、風車、動物など組み立てる。シンプルな手近な素材だけでさまざまな形を創出。</p>	<p>お父さん・お母さん・おじいちゃんおばあちゃんと一緒に作ったり、それで遊んだり、家に持ち帰って試したりと、簡単に楽しめる5つのプログラムを体験していただきました。</p> <p>参加者は、3～5組と少なめでしたが、お父さんの参加が多く、ある程度目的は達せられたかと思えます。いずれも時間いっぱいまで色々試し、次第に完成度が上がっていきました。終わった後は、完成した作品を大事に持って帰られました。</p> <p>幼児対象でしたので、時間の設定を短めにしていましたが、今後は参加者の様子を見て、多少の延長も行えるよう計画しようと思えます。</p> <p>今年は、初めての試みとして、「イクジイ・イクバア」という設定も実施しましたが、年末の忙しい時期にもかかわらず、多数ご参加いただきました。</p> <p>「イクジイ・イクバア」といっても皆様お若くまたお元気で、孫とのひと時を楽しんでいただけたようです。これからの世代を超えた家族の和も広げていくきっかけになればと考えています。</p> <p>参加いただけた方には、十分に楽しんでいただけたようですが、宣伝が行き届いていないのか、子育て世代が忙しすぎるのか、今後の参加者の増加が検討課題だと思えます。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
<p style="text-align: center;">特定 非営 利活 動法 人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育講話 : 毎月第1日曜日 参加者延べ人数 51人 ・ガールズクラブ : 年に2回実施。参加者延べ人数 9人 ・料理教室 : 年に8回 参加者延べ人数 35人 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てにおいて各自が持つ価値観と社会の流れとの違和感を持っている人が多く、正しい価値観と親の権利・義務に自信を持って子育てをするようサポートする必要性を感じる。 ・複数親子の交流によって、お互いに励まし合うことができるグループあるいはコミュニティを作る必要性を感じる。 ・家事の大切さ、面白さを見出せる活動や家族を元気づけ、サポートする活動の必要性を強く感じる。 ・平成27年度には、「子どもたちが小さい時から良い自分を築いていくための事業」を増やす方針。
<p style="text-align: center;">日本 宇宙 少年 団六 甲分 団</p>	<p>4月 明石海峡公園で遊ぼう 11名 5月 芦屋市民活動フェスタ 59名 7月 水ロケット近畿地区予選会 56名 7月 精道小学校夏祭り 23名 8月 但馬空港水ロケット製作・発射 134名 11月 結団20周年記念式典並びに講演会 287名 12月 次世代水素エネルギー講座 10名 2月 天体観測in淡路島 10名 2月 淡路島JAXA宇宙イベント 42名 3月 「海王丸」海洋教室 24名 3月 精道フェスティバル 102名</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分団だけの活動には限界があり、一般の子どもたちへの参加呼びかけが必要。 ・子育て中の親子の参加で幼児をつれてきた場合は託児が必要。 <p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近、マスコミで宇宙関連の情報が多く発信され、親子の参加が増加している。
<p style="text-align: center;">浜 風 ク レ ヨ ン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お買い物ごっこ(家にあるお菓子などの空き箱を利用) ・鯉のぼり作り(割り箸に色画用紙で鯉のぼりの形をはる) ・母の日のプレゼント作り(紙皿と紙コップで壁掛けを作る) ・風船遊び(バルーンアート) ・父の日のプレゼント作り(色画用紙をネクタイの形に切り絵を書いた) ・七夕飾り付け(浜風幼稚園で笹をいただき、折り紙を切り、飾り付け) ・どんぐり拾い、どんぐり工作(予定通り行いましたが、ほとんど落ちていなかった為工作もできませんでした) ・ハロウィン(ビニールで衣装を作る) ・クリスマスカード作り(色画用紙でカードを作り、お子さんに飾りをはってもら) ・お別れ会(手作りメダル(折り紙)を作る) <p>その他、浜風幼稚園でのみんなで遊ぼう会に参加させていただいたり、月末にお誕生日のお子さんがいれば、簡単に、お誕生日会をしたりしました。</p>	<p>浜風クレヨン26年度の活動、毎週木曜日(午前10:00~11:30)浜風幼稚園の一室をお借りして、活動させていただきました。イベントがなければ、お部屋での自由遊び(浜風幼稚園の長期お休みの時は、クレヨンの活動もお休みです。)</p> <p>(感想、課題)</p> <p>スケジュールを早めに作って、皆さんにお渡します、どんぐり拾いのような事もたまにありました。日を変えるなど、素早い対応、連絡などができませんでした。今後は、下見に行くなど、色々考え、もっと皆さんに楽しんでいただけますようがんばってまいります。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
浜風 コ ミ ユ ニ テ ィ ・ ス ク ー ル	<p>①地域に向けた行事</p> <p>4月13日 芦屋ファンラン 給水係り担当 4月19日 ウォークラリーとバーベキュー大会 5月22日 浜風コムスク スポーツクラブ21総会 6月7日 芦屋市コムスク連絡協議会総会出席 7月22日～24日 ふれあいプール開放 7月22日～31日 ラジオ体操 7月23日・24日 子どもしょうぎ教室 7月26日 サマーカーニバル協力 本部担当 7月28日 子どもしょうぎ大会 8月2日 芦屋浜夏まつり参加 イベント係担当 出店 浜風スターズ 浜風子ども会 コープ委員会 8月3日 ドラゴンボートレース大会協力・出場 出場 リベリオン 理科教室(噴水を作ろう) 8月30日 浜風小学校の草抜き 9月13日 芦屋市新体力テスト測定会参加協力 10月19日 芦屋浜健康フェスタ 参加 50m走コーナー担当 10月26日 護身術教室 指導: 浜風空手道教室 10月30日 コムスクだより62号発行 11月22日 浜風小学校音楽会 浜風コーラス出演 12月4日～8日(市民センター) コムスク合同文化展 陶芸出展 1月10日 どんど焼きとお茶席 2月6日～8日 ふれあい作品展(各クラブ展示) 3月26日 理科教室(食べ物電池) 3月26日 子ども避難所体験 3月31日 コムスクだより63号発行</p> <p>②子ども対象のクラブ活動</p> <p>浜風スターズ(少年野球)・浜風ミニバス(バスケットボール)(女子のみ)・F. Cリベリオン(少年少女サッカー)・シーサイド芦屋クラブ(ママさんバレーボール)・少林寺流空手道 錬心館・浜風空手道教室・浜風コーラス・浜風陶芸サークル・芦屋ロッキーズ(成人ソフトボール)・アパッシュ浜風(生涯スポーツ)・あしかびレディース(フットサルクラブ)・浜風気功倶楽部・うっかりFC(フットサルクラブ)・G-RAFT(フットサルクラブ)・茶の湯 泉会・英語の広場浜風アップル・書き方教室(キッズ)・AFCあしかびジュニア(フットサルクラブ)・スポンジボールテニス</p>	<p>地域に向けた行事の中で、地域の高齢者と子ども達が交流できたら良いと思うが、(高齢者だけでなく)地域住民の参加が少なくPRや事業内容に工夫が必要かと思う。</p> <p>働く保護者が増えて、浜風小学校のする家庭児童学級は子どもであふれているのに対し、同じ時間に開催したコムスクの行事には子どもが集まらないという状況もよくある。</p> <p>次年度(28年度)キッズスクエア対象校となっているため、今後どのように関わっていくか現在の子ども向け行事をどう調整していくかが課題となる。</p>
ひ よ こ っ こ 朝 日 ヶ 丘 幼 稚 園	<p>平成26年度は活動を休止していました。</p>	

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
プーさん	<p>9月 阪神南県民センターまちの子育てひろばアドバイザー派遣「英語で遊ぼう」7組</p> <p>1月 市のグループ支援事業による助成金で「親子リトミック」3～5組（3月に第2回開催）</p> <p>1月 子育てセンターによる「井戸端会議」10組以上 保健師さんとOBママ参加で、悩み相談等</p> <p>2月 姫路こどもの館による「人形劇」10組以上 人形劇のあとはおもちゃ作りもあって楽しめた。</p> <p>天候により参加者は左右されたが、通常活動に比べて、イベント時は参加者が増えています。</p>	<p>意外とサークルのことを知っている人が少ないので、もっと知ってもらいたい。</p> <p>地域によってグループに差もあり、プーさんでは人数が少ないので、「リーダーの負担」を抱え、後任に困っているのが現状。 活動場所は幼稚園の絵本の部屋でおもちゃもあり、子どもにとっては十分だが、親同士の交流や、もっと内容豊かな活動が出来るように、アドバイスや支援があればと思います。</p>
ふれあい芦屋マダン	<ol style="list-style-type: none"> 子どもの多文化との出会いを提供する。 <ul style="list-style-type: none"> 1991年から毎年3月下旬の休日に開催。今年ステージでは、沖縄、韓国・朝鮮、中国、ペルー、ブラジル、ハワイ等の歌や踊りを披露することができた。 毎年、テーマを決めて特別展示を行っている。今年は、「インドの文化と歴史」というテーマで日本とのつながり等、様々な面から調べたことをまとめて展示した。 日本在住の外国人の保護者から、「自国の文化が紹介されていたり音楽が流れてきたりすると、うれしくて心があたたまり、芦屋に住んでよかったという思いになる」という感想をいただいた。 遊びコーナーを設け、いろいろな民族遊びの体験を行った。 在日外国人保護者にとって、「自国の文化紹介を見たり、音楽を聴いたりすることでこの地域に居場所が感じられ、芦屋地域に住んでよかったと思える」という感想を伺った。 子どもたちに環境改善を考え、物を大切にすることを育てることをすすめる。 <ul style="list-style-type: none"> リサイクルを目的とした小学生フリーマーケットを開催 ゴミの削減に向けて、リユース食器を利用。利用者が、汚れをふき取る等の行程を協力してくれた。 防災を取り上げ、子どもの安心安全の意識づけをすすめる。 <ul style="list-style-type: none"> 防災食の紹介のため、試食を行った。 阪神淡路大震災20年を迎えるにあたり、写真や防災グッズの展示や、子どもスタンプラリーを行った。 市内小学校における阪神淡路大震災についての取り組みの紹介を行った。 市内在住の防災士の方を紹介し、地震の際の対応についてお話を伺った。 芦屋市で歌い継がれている歌「この町がすき」を小学生が中心となり、参加者全員で歌った。 	<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ステージでは、小学生児童約100名の参加があった。ステージでのいろいろな国・地域の文化の紹介が、その文化の多様性を伝える一助となったと思われる。 保護者が、自国の文化に誇りをもって生活することができていることが、子どものアイデンティティーの形成に役立つと思われる。 <p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> いらなくなった物を出品し、交換することで、他学年や他校の児童に積極的に声をかけ、楽しんで参加することができていた。 <p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども向けに設けた多くの防災コーナーから体験、クイズ、歌、お話などの様々な形を通して防災について考えることができたと思う。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 芦屋市・芦屋市教育委員会の後援はいただいているが、資金の確保は、自分たちで行わなければいけないため、阪神大震災後特に難しくなっている。 広報活動に限られ、参加者を広げていくことが課題である。

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
ベビ☆パラ	<p>(10月 まちの子育て広場より英語を使った親子遊びのアドバイザーを派遣)</p> <p>12月 コーチングのワークショップ(子育て支援事業)</p> <p>2月 「わらべうたの会」の方からわらべうたの教室を実施。 子供も親もわらべうたを覚えて楽しめた。 他のメンバーとも共通の遊びをすることによって親睦が深まりました。 (子育て支援事業)</p>	<p>ベビパラというサークルは誰でも予約なしに来たい時に来れるサークルです。子育て中のママが自主的に活動しているので、普段は自由遊びのみでイベントを頻繁にすることが難しいのですが、市の支援事業で助成金がでるのなら...とイベントを企画するきっかけになっています。実際は講師を見つけるのが大変で次は場所を探して予約するまでも大変です。(音を出してはいけない会場があるので。)ですので、支援事業で助成金を出して頂くより、子育てグループだけが参加できる人形劇やペープサート、リトミックやわらべうたなどを年2回くらいして頂く方がリーダーとしては良いです。市民誰でも参加できるイベントは沢山ありますが、サークルに入っていないと参加できない、となるとサークルに入ろう!というママが増えると思います。サークルという響きから入るのを遠慮するママが多くて、会員がいつも少ないのです。オープンなサークルなのですが、なかなかその良さをわかってもらえないのが歯がゆいです。</p>
ペンギングループ	<p>4/30 初めましての会。集まったメンバーで自己紹介</p> <p>5/7 母の日制作で母親にお花をプレゼント</p> <p>5/21 二条公園に集まり、自由遊び</p> <p>6/11 西山園児との交流会</p> <p>6/25 お誕生日会。ペットの製作</p> <p>7/9 お掃除。ホウキも作ってみよう</p>	<p>4/30 初めましてなのに、昨年からのメンバーしかおらず...。もっと、認知度を上げたいが、幼稚園に来られた事のない方にとってはハードルが高そうだ。</p> <p>5/21 公園参加者がほとんどおらず、やはり、イベントなどの方が人数は多い気がします。</p> <p>6/25 ペットの製作。7/9 ホウキの製作は子供達がとっても喜んでくれました。</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
<p style="text-align: center;">保 育 グ ル ー プ に こ こ</p>	<p>平成26年4月～平成27年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育回数 84回 ・保育時間計 190時間 ・子ども人数延 302人 ・サポーター人数延 154人 ・保育した場所 ウィザスあしや保育室, 浜風の家, 市民センター会議室・多目的ホール・幼児室, 保健福祉センターサブプレイルーム・会議室・調理室, ルナホール楽屋, 木口記念会館, 浜風小学校, 朝日ヶ丘幼稚園, 伊勢幼稚園等 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ子どもの保育も多く, 利用される人が広範囲になって欲しい(イベント, 講演会等の広報のあり方) ・はじめて親と離れる子どもも多くずっと泣く子, 他の子の様子を見ながら遊びに入れる子, その子に合う保育をする様にしている(事例研修) <p>○感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老婆心ながら親はもっと真剣に子どもを見て欲しい(ペットではない…) ・子育てを他人まかせにしないで自分で創意工夫しながら親も成長して行って欲しい ・子どもの話をゆっくりと聞いてあげて欲しい
<p style="text-align: center;">民 生 児 童 委 員 協 議 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいあいルーム(月5回) <打出教育文化センター・図書館・上宮川文化センター・朝日ヶ丘集会所・三条集会所> ・子育て応援団…気軽に挨拶からSOSのキャッチ(虐待の早期発見・早期対応)までを視野に入れて, 地域にふさわしい活動をしている ・関係機関との連絡調整…子どもに関わる関係機関とのパイプ作り ・「トライやる」の事業所 精道中学校(6/2～6/6 6人) 山手中学校(6/9～6/13 3人)の生徒受入 ・主任児童委員連絡会(月1回) <会長・副会長・家庭児童相談員・こども課・教育委員会が集まり支援について情報交換> <p>(主任児童委員独自の活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児健診未受診者訪問…月1回、こども課より連絡のあった家庭へ案内を持参 	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度から潮芦屋地区の活動拠点として, 潮芦屋交流センターを選定新しい場所での開催に期待感が大きい ・「赤ちゃん応援ネット事業」を展開し, ブロックごとに手作りのスタイを作り, 訪問希望のあった家庭に届けている 今後さらに, 地域の顔見知りができるようにしていきたい。 ・主任児童委員が主となり, 各学校園とのパイプを深めている ・自分たちの作ったスタイを赤ちゃんに届けて喜ばれることに充実感を味わったり, 子育て中の母親の話を聞いて, 将来自分の糧になることを感じ取ったりしている 多くの生徒に素晴らしい体験の機会を与えてあげたい ・毎月情報交換を熱心に行っている <p>・面会できた家庭には, 必ず保健センターへ連絡していただくように案内 保健センターへの返事が増えたとの報告を受け, 訪問が役だっていることを実感 その反面表札の無い家庭に届けることができないのが課題</p>

団体名	平成26年度に実施した事業実施状況	近年の活動等を通しての感想や課題等
ム ー ミ ン グ ル ー プ	<p>○自由遊び・エプロンシアター 子育てセンター:4/2(30名) 精道幼稚園:6/26(21名), 9/18(14名), 10/21(24名), 11/4(10名), 12/17(22名), 1/29(16名)</p> <p>○お花見・公園遊び 宮塚公園:4/2(19名)</p> <p>○自由遊び・絵本読み聞かせ 精道幼稚園:4/17(25名), 4/27(16名), 5/1(17名), 5/13(12名), 6/5(14名), 7/1(23名), 12/2(8名), 1/22(6名), 2/12(6名), 3/12(12名)</p> <p>○ひよっこに参加 精道幼稚園:5/8(14名), 6/12(20名), 7/10(21名), 9/10(28名), 11/13(25名), 12/11(20名), 1/15(14名)</p> <p>○自由遊び・楽器遊び 精道幼稚園:5/22(19名)</p> <p>○未就園児園庭開放に参加 精道幼稚園:7/16(27名), 9/3(24名), 10/29(22名)</p> <p>○自由遊び・指人形 精道幼稚園:7/24(16名)</p> <p>○見学・DVD鑑賞 芦屋市消防署:7/31(49名)</p> <p>○保護者意見交換会 精道幼稚園:10/16(27名)</p> <p>○子育てトークカフェに参加 精道幼稚園:11/19(18名)</p> <p>○3B体操 精道幼稚園:2/19(42名)</p> <p>○折り紙で雛人形制作・動物体操 精道幼稚園:2/26(12名)</p> <p>○アスロンスマイル体操 精道幼稚園:3/5(52名)</p> <p>○自由遊びイカ飛行機 精道幼稚園:3/23(18名)</p>	<p>【課題点】 平成26年から代表を引き継いだ。ムーミンググループは未就園児の活動だが、26年度は上の子が活動場所の幼稚園に在園していたため、兄妹ともに関係する部分もあった。また、在園児の弟妹を誘って、参加者を増やすことが出来た。ところが26年度は兄が卒園したため、園とのつながりが弱くなり、新たな参加者が少なくなり、毎回の準備や片付けなどの活動運営を手伝う人が不足している。</p> <p>今回もそうだが、同じような内容を、こども課、教育委員会、子育てセンター、幼稚園とやりとりしなくてはならないので、事務仕事が煩雑。一番係わりのある、子育てセンターで一元化できると良い。</p> <p>【感想、良かった点】 子供同士が知り合いになり、また家族以外の大人と接する機会ができ、人見知りや場所見知りが減ったという方が何人かいた。親同士のつながりも出来た。</p>